

【第2回まちづくり有識者会議 会議録】

日 時 令和7年9月30日（火） 15：00～16：30

場 所 ランドブレイン株式会社 本社会議室（東京都千代田区平河町）

出席者 関司直也委員、榊田みどり委員、常田昌志委員

町長、副町長、政策企画監、企画財政主幹、政策企画担当主査

1. 町長あいさつ

2. 資料の説明

- ・人口ビジョン
- ・基本構想（素案）

3. 委員からの意見・アドバイス

関司委員

- ・基本構想と人口ビジョンの関係性がわかる立てつけにした方がよい。
- ・社人研の上振れについては前向きに評価できる。現構想の中での手ごたえや社会減の抑制という評価を入れても良いのではないか。その上で足りないところに手当てしていく。
- ・次の10年の展開をどうするのか。現役世代の人口減少が大きくなる中で、ダウンサイジングなど、町の回し方を考える必要がある。
- ・子どもの数が減ることは仕方ないが、生産年齢人口が働きやすい、過ごしやすい環境を整えることが喫緊の課題。スーパーが無くなったが、それなりの機能は町内にあるべき。
- ・アンケート結果の端々からも感じられるものがあるが、これからの10年で大切にすべきことを、局面にあったメリハリのあるメッセージとして出し方がよい。
- ・人口ビジョンの最後の部分は、もう少し分かりやすく整理できる。協働人口は小国町のオリジナルであり、協働人口にフォーカスする意味合い、どういう人とタグを組むのか。実態が見える人たちとこのように取り組む、など具体的に示す。
- ・昼間人口の考え方も大切。町外から通勤してきている身近な人たちにも、防災の面などで関わりを持ってもらった方がよい。

榊田委員

- ・今回の基本構想では、外部も含めて2つの視点で整理していくという方向性が新しいと思うが、その点があまり現れていない。目指すべき将来像の部分に、視点1、2の考え方がもっと出てほしい。

- ・視点2の書き方について、外と内が分れすぎている。「外部への発信力」、「町外の人財」という言葉を使っているが、はっきり分けすぎている感じがする。
- ・「第2にふるさと」という表現もあるが、色んな関わり方がある。働きに来ている人とか「ふるさと」としてでなく関わっている人もいる。境界線を引きすぎではないか。

常田委員

- ・社人研は上振れしたが、現行の人口ビジョンとのギャップは大きい。現行ビジョンや戦略で示した打ち手に対して、成果はどうだったのか。
- ・人口減少に対しての打ち手が、子どもを増やす対策に偏っている。3世代同居が多いという視点もあってもよいのでは。
- ・災害について、町が広くて人口も分散しているため、インフラコストもかかる。コンパクトシティ化はする必要があるのではないか。
- ・榊田委員からは内と外をはっきり分けすぎではという発言があったが、町の人が町の中を向いている印象があるので、外に発信する、外に目線を向けることを町民が意識できるように仕向ける必要がある。

政策企画監

- ・現行ビジョンの分析に踏み込めていないところはある。
- ・主任者会議でも、40代から50代の生産年齢人口の社会減が目立ってきているという指摘があった。個人的な要因が大きいものと思うが、そこにどんな手が打てるのか難しい。
- ・視点1、2や協働人口の書きぶりについては、ご指摘のとおり検討したい。
- ・コンパクトシティ化については、立地適正化計画も策定中であるため、特にインフラについて課題として検討したい。

町長

- ・小国の産業構造は半分が製造業や建設業であるが、以前のような正職員ばかりでなく、派遣や外国人労働者が増えている。住民票を移さずに町内で働いている人もいる。企業には景気の波があるが、企業の景気が町の人口に大きく影響している。
- ・個人所得が高いが、町の中にお金を落とすところがないため、そこに力を入れる必要がある。高校生がカラオケを復活させたが、昼の時間はお年寄りも使っており、町の賑わいづくりに繋がつている。

副町長

- ・人口減少の速度が緩んだ要因としては、北関東の求人活動をしてきたことも要因と考えられる。
- ・今日、基督教独立学園の校長先生や教頭先生が役場にお見えになり、今後は町に対して

オープンにしていきたい、行政との繋がりも深めたいという話があった。小国高校を含め、ふるさと納税で教育支援に充当する仕組みなどを広げてほしいということであった。

- ・ 東部地区では、米部や大豆部などの学園生の取り組みに地域の若い人が参加しており、新たな仲間づくりのきっかけを上手につくっている。

図司先生

- ・ 人口ビジョンにおいて、昼間人口や外国人労働者の観点も入れ込んだ方がよいのではないか。
- ・ 軽く飲みに行ける場所などのニーズを洗い出し、ある程度のボリュームがあれば起業にも繋がる。徳島県神山町の「ワーク・イン・レジデンス」のように、特定の職種を逆指名することも考えられるかもしれない。それがサードプレイス、人と人との接点づくりにもなってくる。
- ・ アンケートで将来戻ってくるか「わからない」のは期待できる。町が賑やかに動いていれば、戻ってくる可能性があり、その下地を作るポテンシャルはあると思う。

榊田先生

- ・ 小国町は風通しの良い町。外から来た若い世代が町と繋がって活躍しているのがいい。仕掛けるのは年配側からではなく若い人からでないと関係性を築くのは難しい。
- ・ 富山県立山町では、地域のリーダーが集まると課題ばかり出て暗くなっていたが、Iターン移住者を呼んで主役にし、長老は後方支援に回ったところ良い方向に進んだ。
- ・ 基本構想について、誰に読んでほしいかということを考えると、町民には注釈があっても読みづらいのではないかな。もっと共感と呼ぶような書き方ができないか。

常田委員

- ・ 小国町では、年配の人を含め、若い人を応援してくれる風土がある。そこをつつくことは良いかも。
- ・ 基督教独立学園はベールに包まれていた感があったが、オープンになれば期待が持てる。

副町長

- ・ カネジュウ商店の閉業後について検討を重ねてきたが、まちの駅を運営しているいきいき街づくり公社がミニスーパーをオープンさせる。移動手段のない高齢者が買えるように日用の食材が中心で、地元の野菜組合、渡部肉店も入る。チャレンジショップ的な場所も作りたい。地元高校生のアルバイトも想定しており、何かが起きるといいなと期待している。

企画財政主幹

- ・生まれてくる子どもの数が10人ということに危機感を持っている。町として婚活などに力を入れてこなかったが、初婚の人が子どもを生む率が高いため、初婚をいかに増やすかも考えたい。
- ・田舎では男女の固定観念が強いが、雪の心配のない住宅など、女性が住みやすい、暮らしやすい町にしていくことへの理解を広げていく必要がある。

4. 今後の日程

- ・11月頃に予定している最終的な基本構想案の確認についてはメール等でご指導いただくこととする。